

「自分の家と災害」

佐賀県 唐津市立平原小学校 6年 田中 咲希

2023年7月10日午前5時30分のこと。ちょうど1年前に発生した災害について振り返りのつもりで書きます。その時のことをお父さんとお母さんに聞いたけど、「思い出したくない」と言いました。私も同じです。でも災害の怖さをみんなに知ってもらえれば、命を守ることに繋がると思います。そのために書きたいと思います。

災害1年前私たちの生活は、一言でいえば、普通でした。例えば、朝はお母さんが母屋でご飯を作ってくれていました。トマトづくりでいそがしいお母さんのために、夜はおばあちゃんご飯を作ってくれていました。寝るときは母屋の前の家で寝ていました。家は100年たっていましたが、家族が安心して生活できる家でした。災害の前日、雷と共に断続的に強い、雨が降り続けました。私は、大きな雷が何回も鳴り響いていたのでとてもこわかったです。その時一番考えていたのは、「こんな強い雨が降って、道は通れるのかな」です。なぜかというと、学校に行くことができないのではないかと思ったからです。私たち鳥巢地区は学校までタクシーで通っています。昔、土砂崩れがあって、工事をしている場所もあります。こんな強い雨だと、また崩れるのではないかと思っていました。

災害の前日、強い雨と雷に不安はありましたが、いつものように、私はぐっすりと寝ていました。そんな時でした。裏山が崩れたと言ってお母さんとお父さんに起こされました。とにかく避難しないといけないという必死な表情でした。たたき起こされたのでビックリして何があったのか分かりませんでした。様子を見にいくと、土砂や水が母屋に流れてきていました。とても信じられませんでした。私たちは急いで、荷物を出すことになりました。私の荷物は、ランドセルや学校で使う学習用具でした。私とお兄ちゃんは荷物を出し終わって、別の部屋で過ごしていました。すると、「ドオン」という大きな音が聞こえました。それは私たちがさっきまで生活していた母屋がくずれ音でした。私たちは避難していたので大丈夫でしたが、最後まで家の中にいたおばあちゃんが崩れた家の下じきになりそうでした。もう少し遅かったらと思うとぞっとします。

雨がやむと災害の状況が分かってきました。心配していたように、道路は通れなくなっていました。被害の大きさを感じました。しかし、3日後には別の道を通って学校に行くことができました。不安は少しだけ軽くなりました。でも家のことを考えるとどうしても明るい気持ちにはなれません。

友だちはやさしい声をかけてくれましたが、中には、じょうだんぼく、私が傷つくことを言う人もいました。今考えると私が、じょうだんとして受け止めることができなかったのだと思います。それぐらいショックが大きかったです。私がこの災害から学んだことは、前もって家族で話し合っておくことが大切だということです。例えば、食料の飲み水を保存しておくこと、家族が違うところにいる災害にあったら、どこに集合するかなど、話し合っておくことが大切だと思いました。「大丈夫だから」といって過信せずに行動することが大切だと学びました。次に災害があった時にはどうしようというのを考えていることが大切だと学びました。今年も大型の台風がやってきました。日本は地震も起こります。でも、いつ、どこで起こるか分からないからこそ自分で予想して、考えて、行動することが大切だと思います。

今、私たち家族は別の家で暮らしています。今、家族の生活は災害前とではだいぶ明るくなりました。おばあちゃんも元気です。私が大きくなってここをはなれても、この体験を生かして準備することの大切さを教えていきたいと思っています。